

二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会 2023年度 第2回研究会 資料

## 不登校児童生徒の状況

「不登校児童生徒の実態把握に関する調査報告書」（2021年 文部科学省）より抜粋

### 調査の概要

#### 1 調査方法

調査時点において、調査への協力が得られた学校に通う小学校6年生又は中学校2年生で、令和元年度に不登校であった者のうち、調査対象期間に、学校に登校又は教育支援センターに通所の実績がある者及びその保護者を対象としたアンケートを実施

#### 2 調査対象

調査への協力が可能と回答のあった対象学校7,161校（22,009人）。

（小学6年生）6,080人、3,498校

（中学2年生）15,929人、3,663校

#### 3 調査手法

調査対象校から調査対象児童生徒及び保護者への調査票の配付及び調査対象児童生徒及び保護者から調査実施業者への直接送付

#### 4 調査時期

令和2年12月1日～令和2年12月28日（令和3年1月19日までの回収分を集計）

### 1 最初に学校に行きづらいつ感じ始めたきっかけ

最初に学校に行きづらいつ感じ始めたきっかけは、多岐にわたる。一番割合が高いものは、小学生は「先生のこと（先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど）（30%）」、中学生は「身体の不調（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）（33%）」である。

学校生活のいずれかがきっかけの児童生徒は8割弱。身体的な不調や生活リズム変調がきっかけは4割強。2割強（小学生（26%）、中学生（23%））は、「きっかけが何か自分でもよくわからない」と回答している。

#### 【きっかけ 全般】

「友達のこと（いやがらせやいじめがあった）」「友達のこと（いらがらせやいじめ以外）」「先生のこと（先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど）」「勉強が分からない（授業がおもしろくなかった、成績がよくなかった、テストの点がよくなかったなど）」「部活動の問題（部活動に合わなかった、同じ部活の友達とうまくいかなかった、試合に出場できなかった、部活動に行きたくなかったなど）」「学校のきまりなどの問題（学校の校則がきびしかった、制服を着たくなかったなど）」「入学、進級、転校して学校や学級に合わなかった」「1～7以外の理由で学校生活と合わなかった」「身体の不調（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）」「生活リズムの乱れ（朝起きられなかったなど）」

## 2 学校を休んだことについて今、どう思っているか

### 小学校

「もっと登校すればよかったと思っている（25%）」「登校しなかったことは自分にとって良かったと思う（12.8%）」「仕方がなかったと思う（16.8%）」「何も思わない（18.1%）」「分からない・無回答（22.1%）」

### 中学校

「もっと登校すればよかったと思っている（30%）」「登校しなかったことは自分にとって良かったと思う（10.3%）」「仕方がなかったと思う（15.3%）」「何も思わない（15.2%）」「分からない・無回答（29%）」

## 3 どんな学校であれば休まず通えたか

### 小学校

- ・無理しないでいいよとか、「〇〇をしなさい」など言わず、プレッシャーをかけられない。一人の行動が苦手なため、先生（担任以外）などと二人三人で行動ができればよかった。
- ・先生が生徒の体調の変化を分かってくれる。授業が分かりやすい学校。
- ・発達障害の理解のある環境。たとえば、怒鳴らない、怒らない、無理やりやらせないなど。
- ・高学年になると、「高学年だから出来てあたり前」「学校の代表としてはずかしくない行動を」など、プレッシャーをかけられすぎる。「がんばろう」の圧をかけないでもらえれば、少し気が楽になって、学校が好きになる。
- ・みんなが楽しく、変な校則がない。学力別でクラスを分けたり、みんなが行きたいクラスにそれぞれ行ったり、勉強はしっかりやるが、なるべく自由な学校。
- ・差別やいじめがない、個性を認めてくれる学校
- ・いじめがなく、困ったり悩みがあったりしたとき、すぐ相談に乗ってくれる先生たち。
- ・何でも強要しない。行きたくない時は、オンライン授業でも良い学校。
- ・静かで、勉強の進みがゆっくりな学校。
- ・学校という存在がいやだったから、無理だと思う。人間関係ではないので、どうしようもないと思う。
- ・どんな学校でも人が沢山居るかぎり行けない。

### 中学校

- ・中学校に入って、今まで小学校までは割と自由に過ごしていたのが、急に「テスト勉強しましょう」、「評定も取りましょう」、「ちゃんとした大人になりましょう」と、いろいろなことが求められて、つらくなった人、学校に行けなくなった人はいると思う。こうした人たちをしっかりとケアしてほしい。
- ・先生たちが優しく、理解がある。通いづらくなった子どもが通える自由な部屋があると良い。
- ・制服ではなく私服でも登校していい学校。少人数でも授業を受けられる学校。
- ・規則だらけで自由が一切ない学校ではなく、定められたルールの中で自由にできる学校。
- ・先生と生徒の距離が近く、先生と生徒、学年の先輩、後輩で上下関係なく平等に意見が言える学校。
- ・学校に行けてない人の気持ちを理解してくれる先生や生徒が多い学校。
- ・「いじめを無くす」、「全員が過ごしやすい」が目標で終わらず、自分含む学校全体が実行する。。

- ・いじめや差別が無く、みんなが楽しく授業を受けられ、授業でも分からないところを聞きやすい場であること。
- ・普通のクラスの他に少人数のクラスがある学校。
- ・静かな学校。まわりの目を気にせず過ごせる学校。クラスの人数が少ない学校。少人数で授業を受けられる学校。強迫性障害を理解してくれる学校。科目によって先生が変わらない学校。
- ・男と女の間で壁が無いこと。
- ・生活リズムの乱れもあるが、特に制服のスカートが嫌で不登校になった。少しでも女子のズボンや体操服の着用を認めてくれたら、少しは行きやすいと思う。